上州　武尊山　2009.02.08（日）

Ｌ志満、他１名

スキー場トップでシールをつけようとザックをあけた友達が悲鳴をあげた「シールを忘れたぁ～！！」致命的である。でもここから前武尊の山頂まで標高差 220m という手軽さ。つぼ足で大丈夫！と歩き始めたが甘くはなかった。昨夜から降り続いた新雪が深く、つぼ足ラッセルはかなり苦労していた。シールであれば１時間で登れる所を２時間以上もかかってクタクタ状態で到着した。ここからは下りのみだからと励まして荒砥沢へ滑り込む。激ドライパウダーで２人の歓声が上がった♪途中小さな尾根に乗り、滑り込もうとした斜面を見下ろすと急斜面で雪深く嫌な雰囲気を感じた。ここは止めようとキックターンで方向転換をしようとしたその時、スキーのトップが少し落ち「ミシッ！！」と音とともに足下から横に一直線に亀裂が入った。亀裂だけで雪崩はしなかったものの冷や汗もの怖わ～。1700m の所で荒砥沢へ入る。沢はすぐに狭くなり 1600m あたりから両側も切れ落ち降雪後というのもあってコンディションが悪い。このまま沢沿いは危険と感じ、少し戻って傾斜が緩くなったところから左岸に取り付きトラバース。1400m あたりで降りるとすぐに林道と合流した。ここからは林道を下るだけで楽勝！なハズだったが実際は緩い登りでシールのない友達はまたまた苦労していた。林道がとにかく長くゲレンデに合流した時には暮れかけスキー客は誰もいなく最後の点検にきていたパトロール隊と出くわしてしまった「もう少し早くに下山してくださいよ！」と強い口調で怒られてしまった「す・・・すみません」

以前来たときは前武尊山から荒砥沢 1700m あたりまで滑り込んで登り返し十二沢を滑降してスキー場へ戻った。今回のツアーは楽しかったのは荒砥沢までとトラバースに長い林道と苦労が多かった。これから武尊山を計画する方は荒砥沢滑降登り返して十二沢をお勧めます。

北ｱﾙﾌﾟｽ　乗鞍岳　2009.1.25（日）

Ｌ志満、他１名

厳冬期の乗鞍岳山頂に登るのはムリだろうけれど山スキーで乗鞍岳には行ったことがなかったので偵察がてらふらりと出掛けた。スキー場のトップからは切り開かれた道を進むトレースはバッチリなので歩きやすい。最後の急な斜面で樹林帯を抜けると強風が吹き荒れていて雪面はクラストしていた。風で煽られながら何とか位ヶ原を抜け 2600m の登山口まで行ったけれどバリバリのアイスバーンでシールも利かなくなっていた。乗鞍岳は雲がかかって顔を見せてない。厳冬期のこの時期にこれ以上行くのはスキーの領分ではない。早々にあきらめ来たルートを戻る。他のパーティーはみんな森林限界の所で引き返した様で、誰もいない閑散とした広い斜面を追い風に押されながら滑走しゲレンデに向かった。